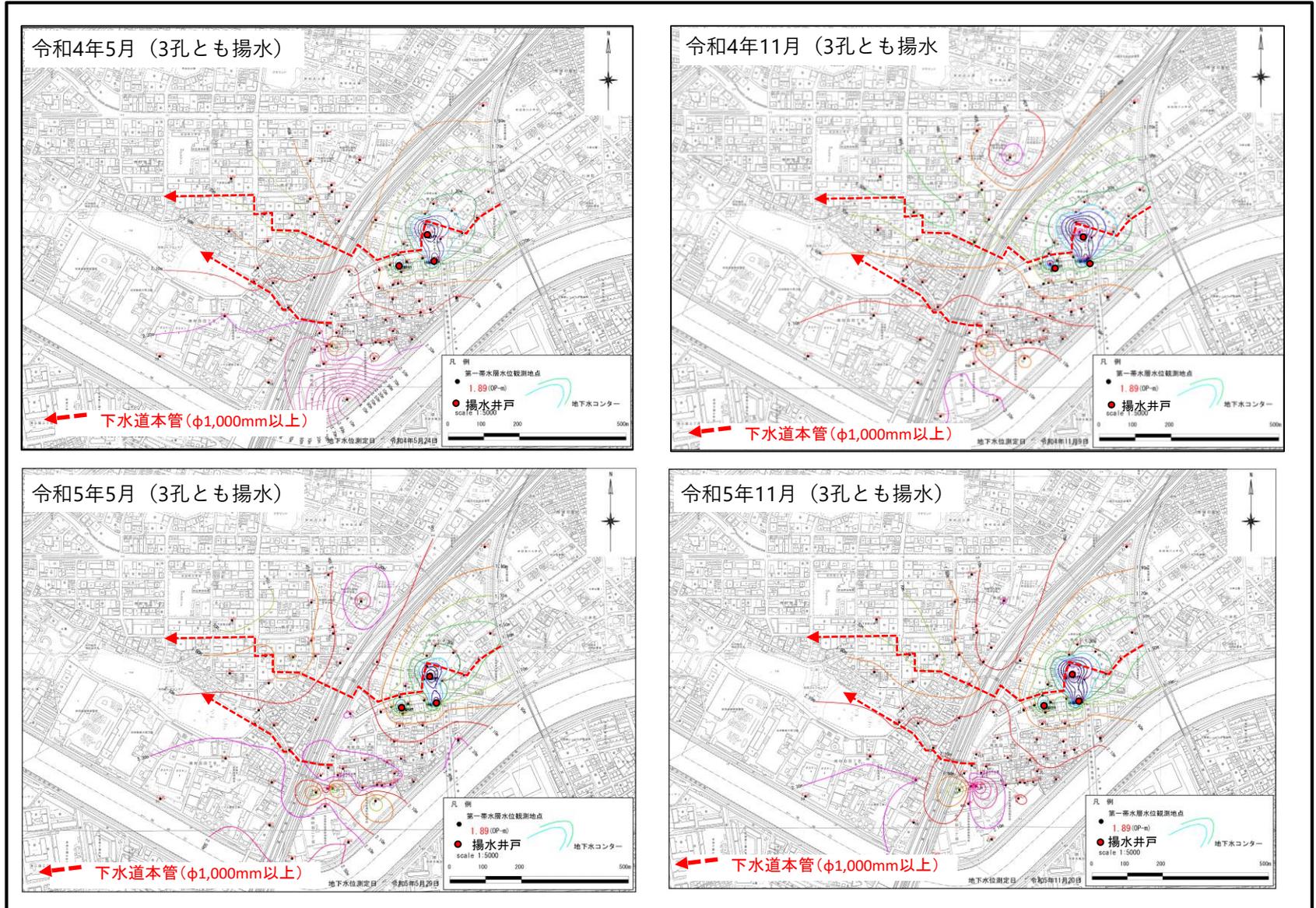


## 資料2

### 地下水汚染の状況

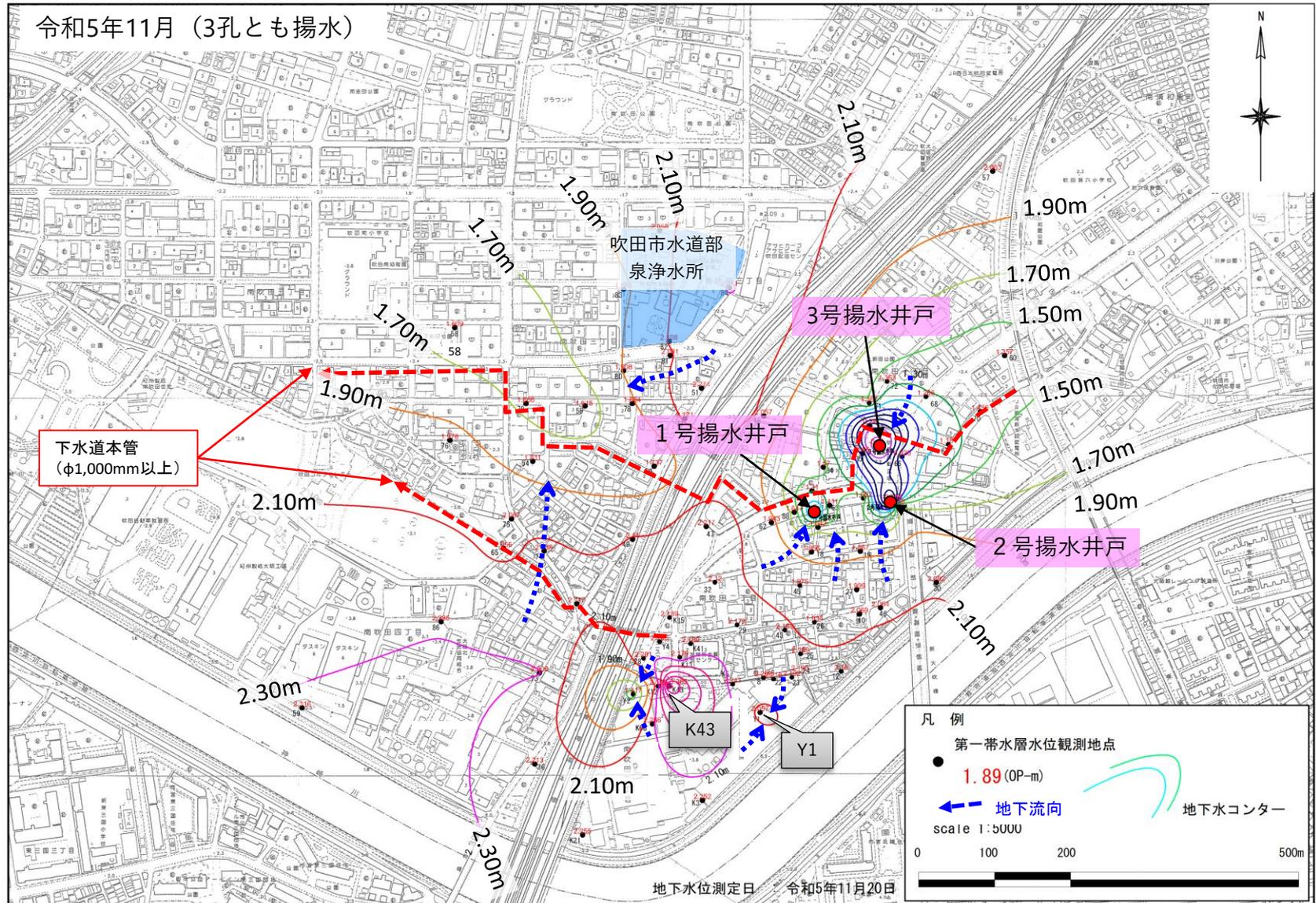
# 地下水位コンター図 (第1帯水層) (1)

JRおおさか東線「南吹田駅」の南側に1、2号揚水井戸、北側に3号揚水井戸



# 地下水位コンター図 (第1帯水層) (2)

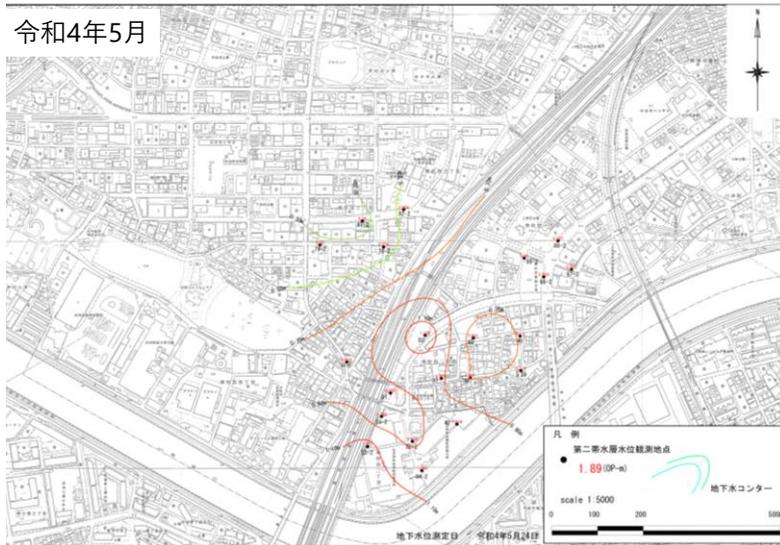
- 大局的には、北側から南下する流向と、南側から北上する流向
- 揚水井戸周辺 (1~3号) の地下水は、局所的に揚水井戸へと向かう
- K43井戸は特異的に地下水位が高い



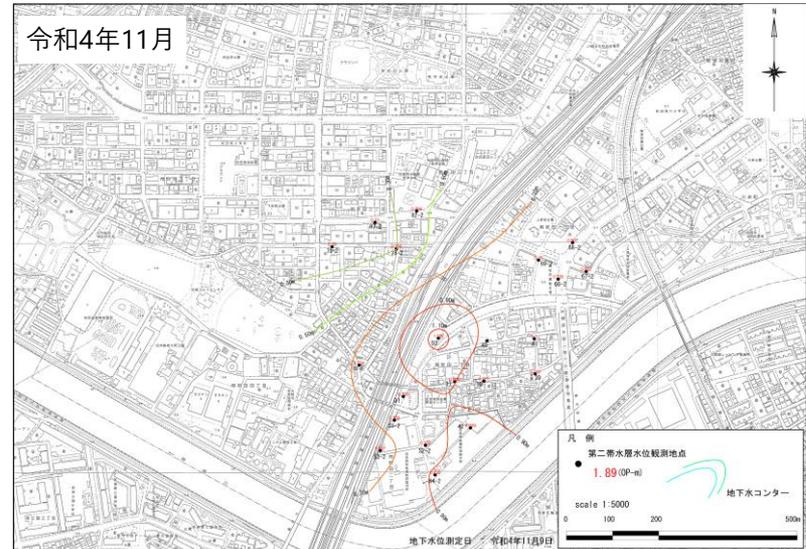
# 地下水位コンター図（第2帯水層）（1）

第2帯水層の地下水位分布は、昨年度の同時期とおおむね同様

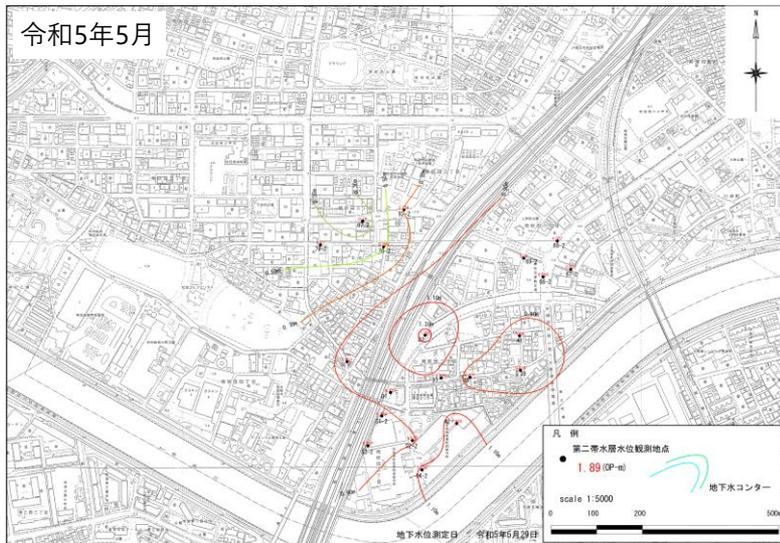
令和4年5月



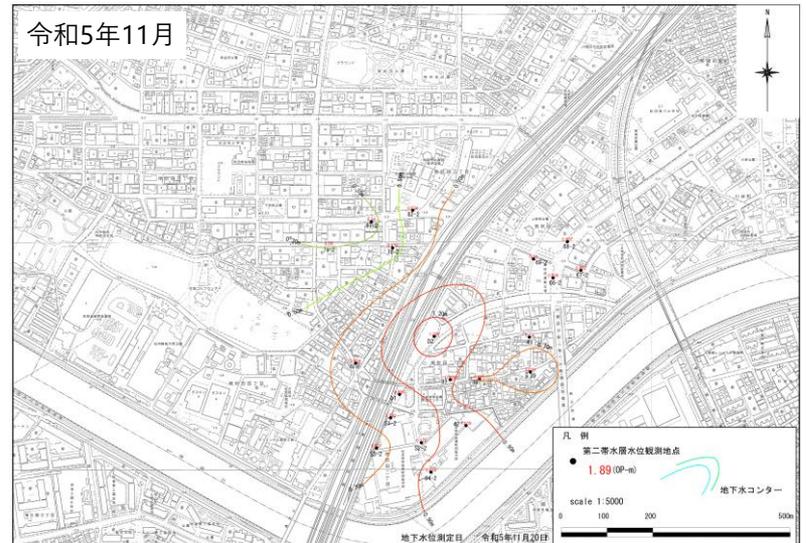
令和4年11月



令和5年5月



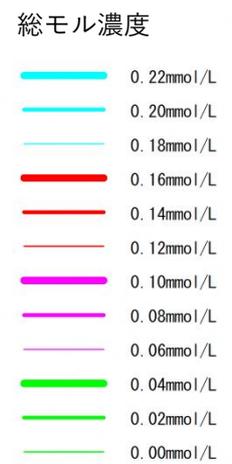
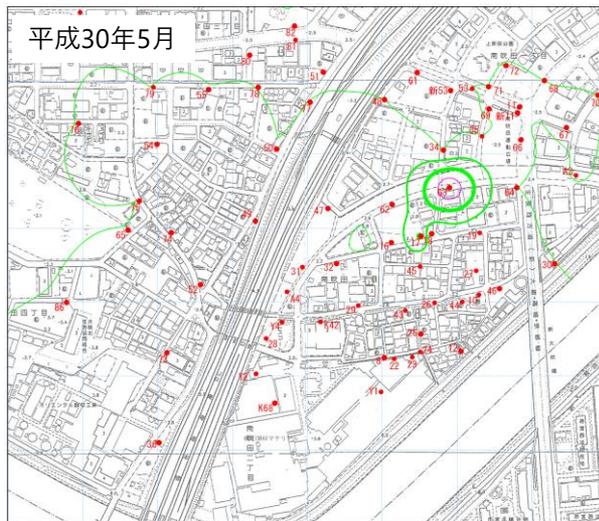
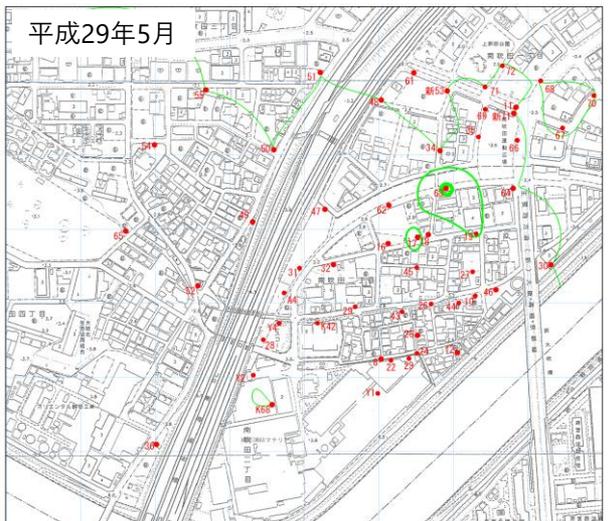
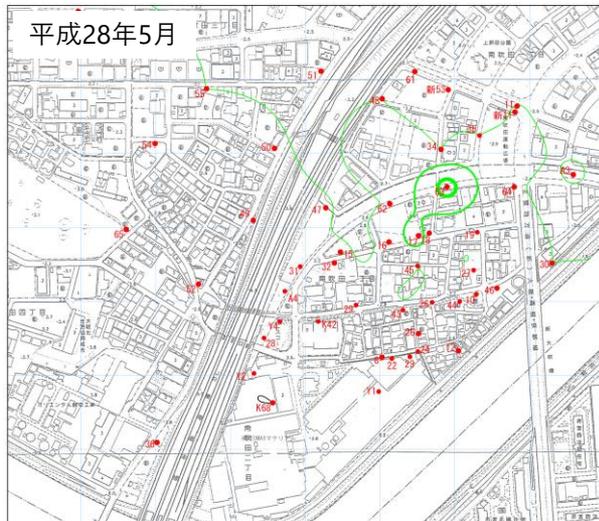
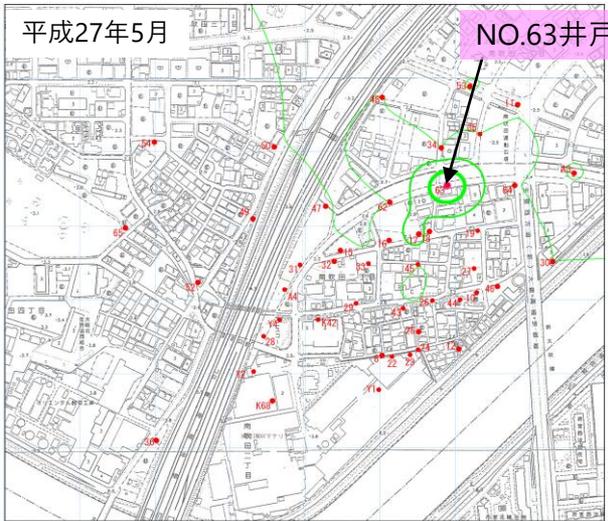
令和5年11月





# 総モル濃度\*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（1）

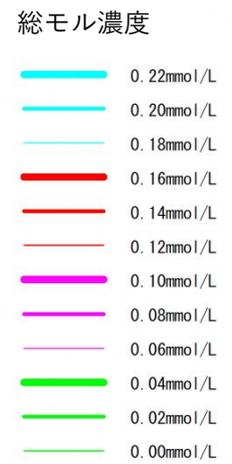
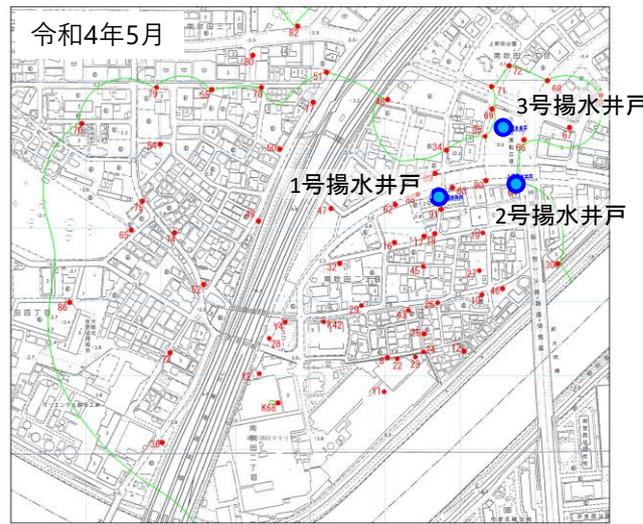
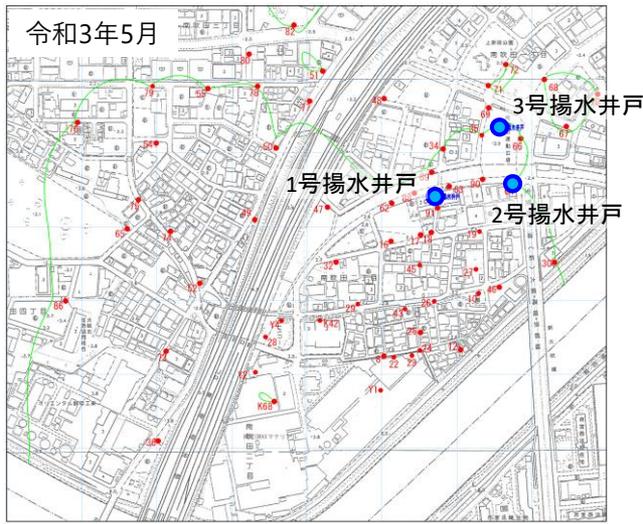
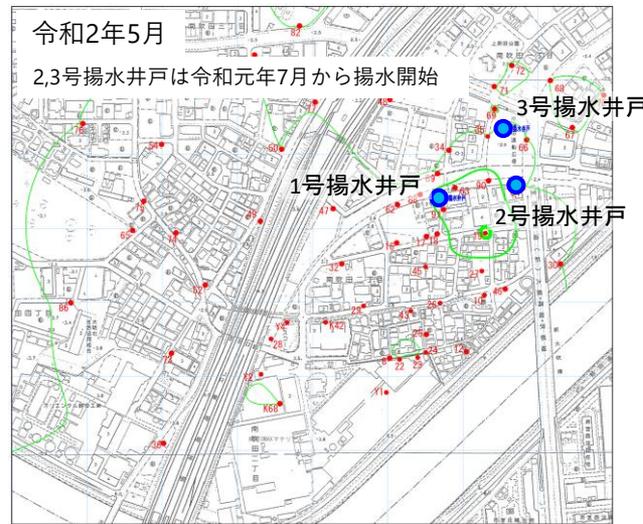
■ No.63（1号揚水井戸近傍）が高い傾向にあった



\*テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和

# 総モル濃度\*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（2）

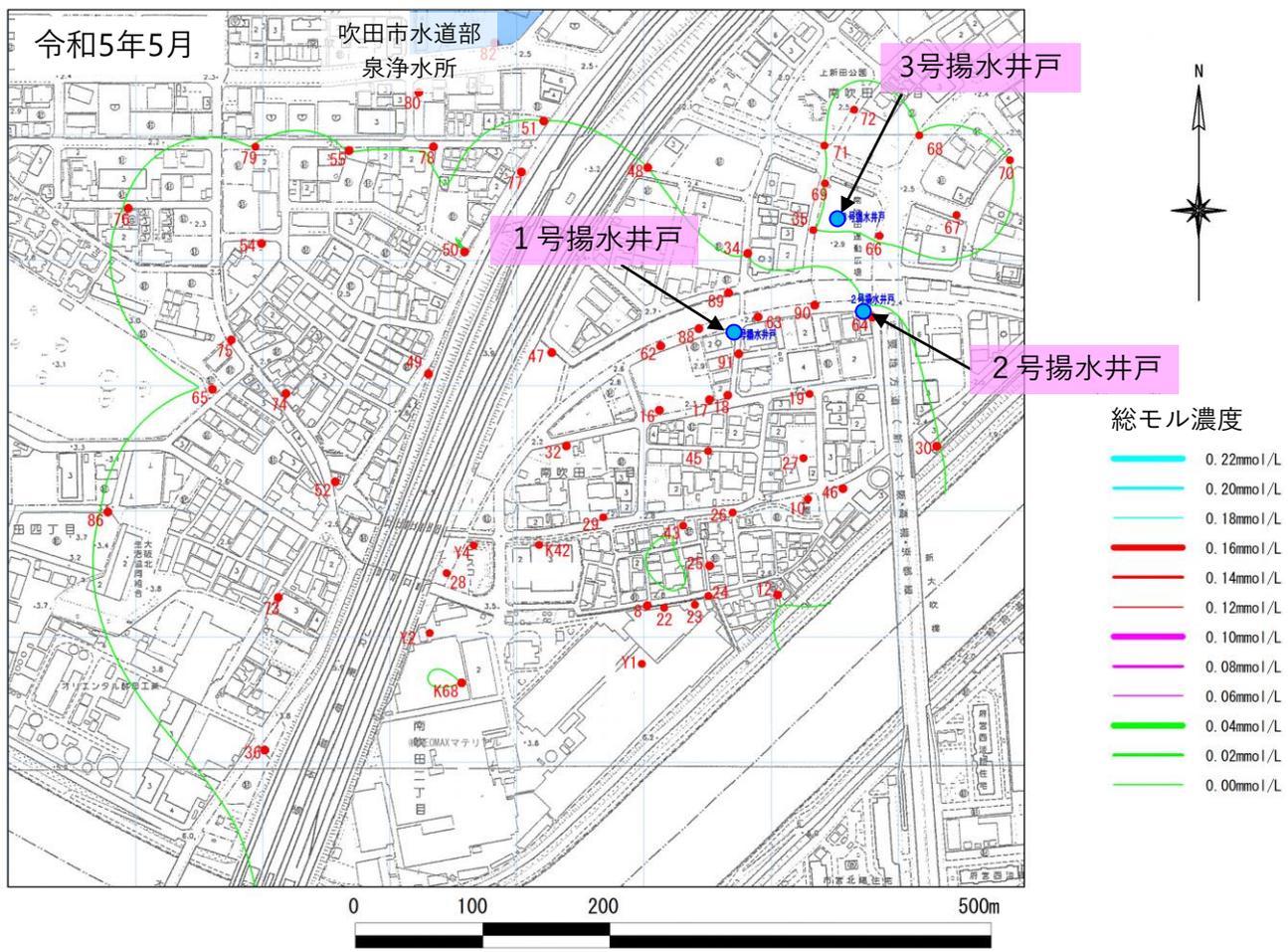
■ 揚水開始後、開始前と比べると総モル濃度は低下



\*テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和

# 総モル濃度\*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（3）

- 1号揚水井戸およびその南側を広がっていた高濃度のエリアが縮小
  - 3号揚水井戸の北側に高濃度エリアが拡大していない
- ⇒汚染地下水の揚水対策で期待された「汚染濃度の低下」と「汚染拡散防止」の効果を確認できた



※テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和



# 第2帯水層の地下水汚染状況図 (1,2-ジクロロエチレン)

第2帯水層 (1,2-ジクロロエチレン) 環境基準0.04mg/L

- JR東海道本線の東側
  - No.40 (環境基準値の15倍程度)
  - S1-2 (環境基準値の30倍程度)
- JR東海道本線の西側
  - No.52-2 (環境基準値の30倍程度)



H29.5	1.8
H29.5	1.7
H29.8	1.7
H29.11	1.6
H30.2	1.7
H30.5	1.3
H30.8	1.4
H30.11	1.3
H31.2	1.2
R1.5	1.3
R1.9	1.4
R1.10	1.3
R1.11	1.3
R2.2	1.4
R2.5	1.9
R2.9	1.2
R2.11	1.3
R3.2	1.3
R3.5	1.2
R3.8	1.2
R3.11	1.4
R4.2	1.1
R4.5	1.0
R4.8	1.9
R4.11	1.3
R5.2	1.2
R5.5	1.2
R5.8	1.3
R5.11	1.3

H25.12	0.17
H26.12	0.17
H27.11	0.18
H28.11	0.20
H29.11	0.17
H30.11	0.12
R1.11	0.12
R2.5	0.23
R2.8	0.13
R2.11	0.17
R3.2	0.16
R3.5	0.17
R3.8	0.22
R3.11	0.21
R4.2	0.18
R4.5	0.18
R5.5	0.21

R1.11	0.71
R2.2	0.65
R2.5	0.99
R2.9	0.59
R2.11	0.49
R3.2	0.58
R3.5	0.71
R3.8	0.84
R3.11	0.93
R4.2	0.97
R4.5	0.98
R5.5	1.2

R2.5	0.045
R2.8~R5.5	環境基準値を満足

H26.12	0.074
H27.11	0.016
H28.11	0.12
H29.11	0.099
H30.11	0.078
R1.11	0.048
R2.5	0.090
R2.11	0.076
R3.5	0.59
R3.6	0.59
R3.8	0.68
R3.11	0.70
R4.2	0.52
R4.5	0.48

H25.12	0.21
H26.12	0.19
H27.11	0.15
H28.11	0.10
H29.11	0.088
H30.11	0.060
R1.11	0.050
R2.5	0.052
R2.11	0.037
R3.5	0.037
R3.11	0.035
R4.2	0.034
R4.5	0.029
R4.8	0.022
R4.11	0.024
R5.2	0.046
R5.5	0.018
R5.8	0.036
R5.11	0.026

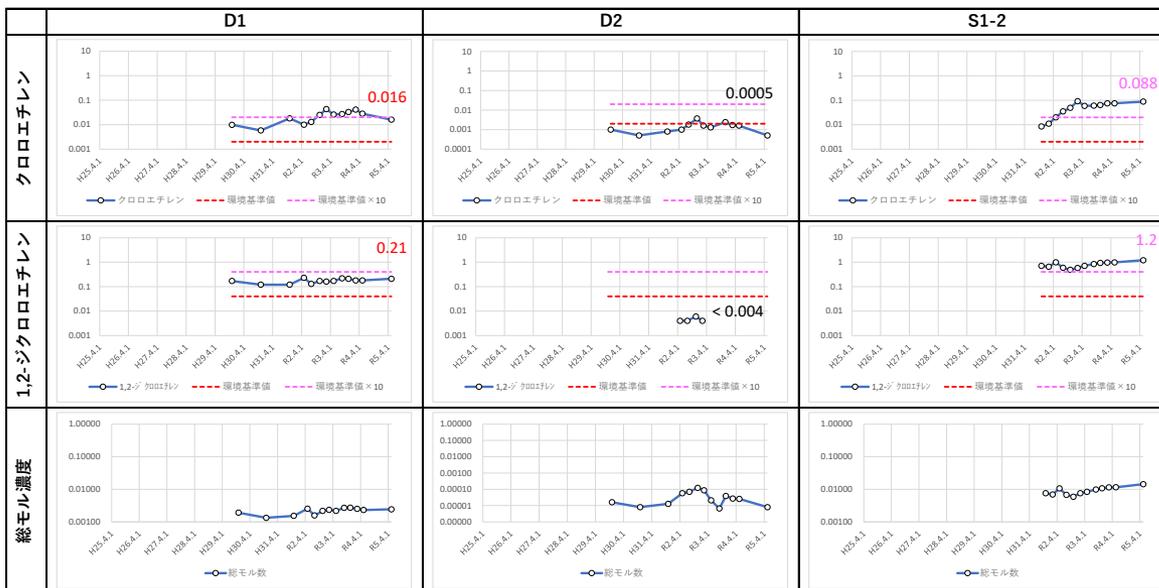
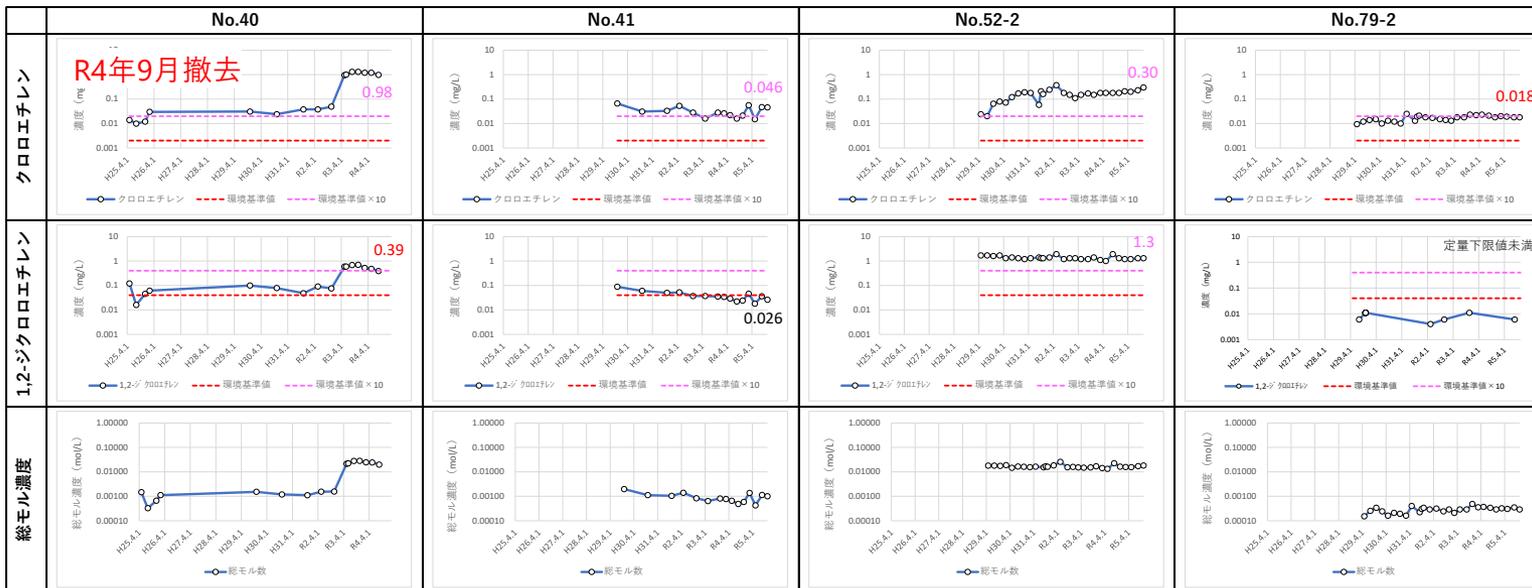
【凡例】

測定値	環境基準値超過
測定値	環境基準値の10倍程度
測定値	環境基準値の50倍程度

赤字：環境基準超過



# 第2帯水層の地下水汚染状況図（主要地点※）



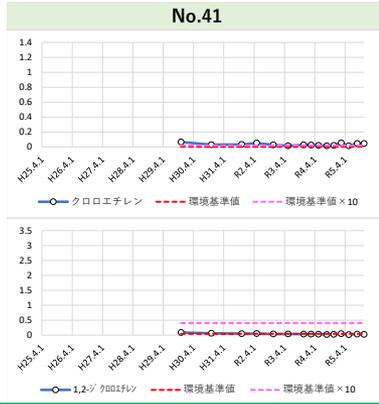
- JR東海道本線東側
  - S1-2の濃度が高いが、おおむね横ばい
- JR東海道本線西側
  - No.52-2井戸の濃度が高いが、おおむね横ばい
  - No.40のような濃度上昇は他で認められない
    - 東側に位置するNo.41の濃度は低下傾向
    - 西側に位置するD2井戸は環境基準値を満足



※ 第2帯水層の観測井戸のうち、下記地点を掲載  
 濃度が相対的に高い井戸：No.40、No.41、No.52-2、No.79-2、D1、S1-2  
 地下水位が相対的に高い井戸：D2

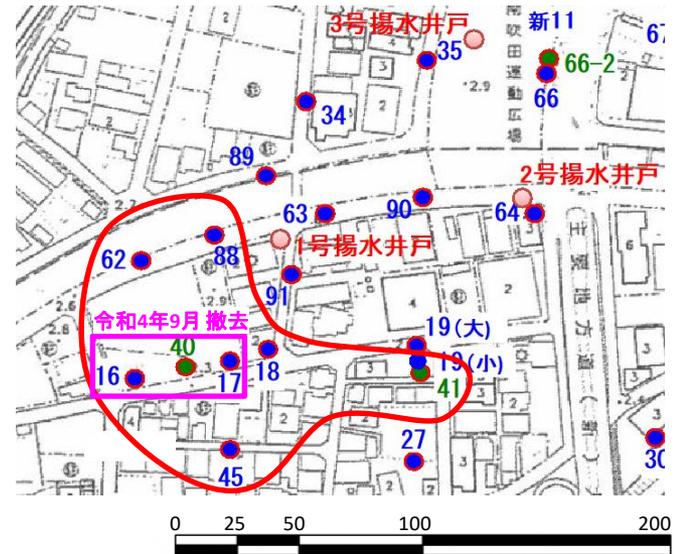
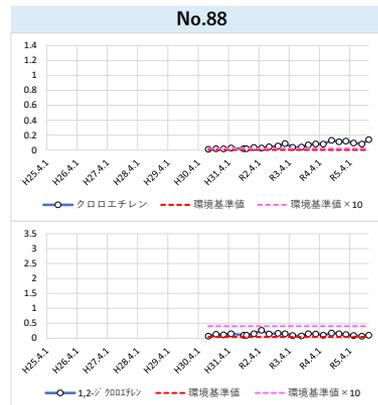
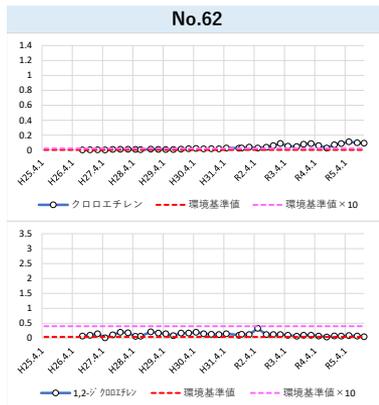
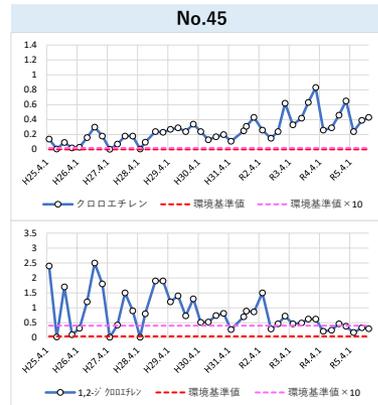
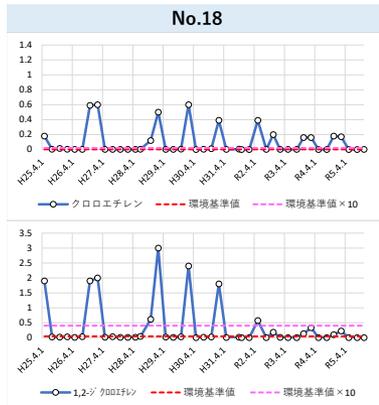
# No.40井戸周辺の汚染状況（第1および第2帯水層）

## 第2帯水層

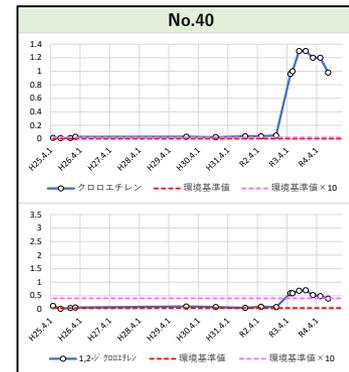


- 汚染地下水が第1帯水層から第2帯水層へと落ち込んだ可能性も考えられるため、第1帯水層においても濃度変化を確認
- No.40のような濃度上昇は、第1帯水層の観測井戸においても認められない

## 第1帯水層



(参考) R4.8までの測定結果



# ま と め

帯水層	地下水位および流向	地下水汚染
第1帯水層	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大局的な地下水流動は、①北側から南下、②南側から北上</li> <li>■ JR東海道本線東側では、揚水による影響を受け、局所的に揚水井戸周辺（1～3号揚水井戸、Y1井戸等）で地下水位が低い</li> </ul>	<p><b>【JR東海道本線東側】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1号揚水井戸およびその南側で濃度が高い （クロロエチレン：No.91 1.1mg/L（R5.11）、 1,2-ジクロロエチレン：No.26 0.39mg/L（R5.11））</li> </ul>
		<p><b>【JR東海道本線西側】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ No.52、54を中心に濃度が高い</li> </ul>
第2帯水層	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1帯水層と比べて調査地点が少なく、地下水形態は不明確</li> <li>■ 中央部（JR敷地内）に位置するD2井戸の地下水位は、相対的に高い</li> <li>■ 水道部の南西側（79-2や87-2井戸等）、工場敷地境界付近（S3-2井戸）の地下水位は、相対的に低い</li> </ul>	<p><b>【JR東海道本線東側】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 濃度上昇が認められたNo.40井戸の周辺では同じような濃度上昇は認められず、No.41井戸の濃度は低下傾向</li> </ul>
		<p><b>【JR東海道本線西側】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ No.52-2やNo.79-2で濃度が高い （クロロエチレン：No.52-2 0.30mg/L（R5.11）、 1,2-ジクロロエチレン：No.52-2 1.3mg/L（R5.11））</li> <li>■ 上記井戸はおおむね横ばいで推移</li> </ul>